



着任あいさつをする平之山局長

局長交代 「森林・林業再生プラン」の実践へ向け  
これまでの取組を1歩でも2歩でも前へ

8月2日付けで沖修司前局長が林野庁国有林野部長に転任し、後任に平之山俊作・前林野庁治山課長が就任しました。平之山局長は8月5日、大会議室で次のように着任あいさつをしました(2面に沖前局長の転任あいさつ)

就任にあたって

8月2日付けで九州森林管理局長を拝命しました。

私は九州は鹿児島出身です。平成元年から4年間、宮崎県南部の串間営林署の署長として、その後、局の土木課長として、良い方々に囲まれて楽しく仕事をさせていただきました。再び九州の地で仕事ができることを

ら低コストの取組を行ってきたという実績があります。育林・伐出・流通↓加工の流れをどこよりも早く効率的なものにするように先達

心からうれしく思っています。当時から20年近く経っているのが状況がかなり変わっているのかと思っています。皆さまには

最近のことを教えていただきたいながら、楽しく仕事をしたいと思っていますのでよろしくお願いたします。

育林・伐出・流通・加工の流れを効率的に

九州は、私どもの先輩が早い段階から低コスト等の取組を行ってきています。列状間伐もそうですし、合板や集成材とのコラボレーションなどさまざま

な取組を全国に先駆けてやってきましたと承知しています。現在、林政の最大の課題の一つは間違いなく「森林・林業再生プラン」の実践です。林野をあげて取り組むことが大切で、前の国会で制度の改正も終えたところ

職員一丸となりの取組

また、九州の方が東京に連れて来た際、シカの被害について

の話をよく耳にしました。機会があり現地を見せてもらいましたが、林業家にとってはヤル気を失うくらいの被害にあっているのではないかと感じています。その取組もさらに一生懸命

やっていきたいと考えています。さらに、昨今、特にいわれるのが、自然環境の保護・保全という課題です。九州は人工林も多い。他方で国有林は原生的な森林も抱えています。国民の皆さまから寄せられる自然環境の保護・保全に対する対応についても皆さまと一緒に取り組んでいきたいと思っています。その上で重要なのが職員の皆

局長が記者会見

平之山局長は8月24日、九州森林管理局林政記者クラブに対して、着任の記者会見を行いました。



着任の記者会見をする平之山局長

職員の安全と健康が重要

皆さまの安全と健康です。安全と健康を可能にする職場づくりに対し、職員の皆さまが楽しく仕事ができる環境になるよう取り組んで参りたいと思っています。最後に、「林業再生は九州から!」という合い言葉がありますが、全国に先駆け、先達のつくった礎を守りながら、1歩でも2歩でも努力していきたい。どうか、ご協力頂きますようお願いいたします。



# 塾の森 生きた学習の場を体験 大学院生2人も聴講生として参加

8月22日、熊本県内の小学校教諭を対象に参加者を募り、森林・林業について学んでいただき、学校での森林環境教育に活かしていただくことを目的に監物台樹木園において「森の塾」を開講。15回目となる今回は、熊本大学教育学部の学生ら2人

も聴講生として参加しました。はじめに、指導普及課長が「生物多様性における森林の役割について」、また、企画官が「シカ被害の現状と対策について」講義を実施。続いて、生物多様性の観点から森林とシカ・野鳥など楽しみながら知ること

が出来る「シカと森林(もり)のカード」のゲームを行いました。その後、参加者は「おもしろい木の名前当てクイズ」や同園内の木に触れながら、樹名の由来や植物の種子について知識を深めました。

また、丸太切り体験や葉脈のしおり作り、マイ著作りなど、樹木とふれあう実習に没頭されていました。

先生方からは「木にふれ、物を作ると心が和む。体験的・実践的な学習が出来て良かった」などの感想が寄せられ、「森の塾」は普段経験することのできない生きた学習の場となったようです。

(担当＝指導普及課)



「カードゲーム」に挑戦する受講生のみなさん

## 挨拶 常挑戦し続ける九州森林管理局であれ 前九州森林管理局長 沖修司

沖修司前局長は8月3日、大会議室で1年10ヶ月の九州森林管理局勤務を振り返り、次のように転任挨拶をしました。

残念ながらそれはかきませんでした。

振り返ってみますと、平成21年10月に参りまして、これまで多くの先輩が築いてきた『九州からの森林・林業の再生』といった言葉を基本に、どのように九州森林管理局をさらに発展させるかということで、皆さまと一緒に取り組んで参りました。特に、森林の整備、木材の販売の分野につきましては、多くの先輩方が取り組まれた結果、全国をリードする素晴らしい局に育っ

てきたと思っています。

そうした中、九州森林管理局として少し弱かった分野は、一つは造林の分野だと思います。そこで、コンテナ苗を使った造林の低コスト化という新しい分野に取り組んで参りました。もう一つは森林生態の分野です。私たちが業務の対象としている森林にきちんと着目し、国民の森林として、どのように取り扱っていくことがふさわしいのかということです。皆さまには、特にシカ被害対策について取り組んで頂きました。シカ被害対策は林業再生にとっても取り組まなくてはならない課題です。現在、山村の状況を見れば簡単にこの課題が解決するものではありません。『国民から負託されている国有林という森林を自らの手

で守っていく。』この思想を基に、皆さまには大変ご苦労を頂いたと思っています。昨年のシカ対策への取り組みは、各市町村長から「よくやってくれた」と言う声を聞いておりますし、屋久島世界遺産地域科学委員会の座長である矢原徹一九州大学教授からは「これまでやることは」という驚きと賛辞の声も届いています。九州森林管理局の良い面を出す事ができたものと思っております。

この1年10カ月を通して、「まずやってみよう！やってみて、ここがおかしいならまた修正して前に向かって進んでいく」という九州人の気質が、とても素晴らしいと感じています。

順応的管理という言葉がありますが、まさにこういった取り

組みを九州森林管理局はできているのではないかと思っております。

今後、林野庁から全局を見させて頂く形になりますが、常に九州森林管理局が全国をリードして頂きたいと思っておりますし、リードできる局であると思っております。九州森林管理局の一つひとつの成功事例が、全国の森林管理局を動かしていく原動力になるのではないかと考えておりますので、引き続き皆さまのご努力をお願いしたいと思います。

最後に、『常に挑戦し続ける森林管理局』であっていただき、ますようお願いしましてお別れの言葉とします。1年10カ月の間、皆様ありがとうございました。



8月2日付で林野庁国有林野部長へ転任となりました。個人的にはもう少し九州に在任し、九州の森林・林業を進化させてみたいと思っておりますが、





西都児湯森林管理署

穂北森林事務所

森林官 沖田 正志

宮崎県西米良村北側に位置する「石堂山」(1547・4㍎)は、市房山(1720・8㍎)、天包山(1188・8㍎)とともに「米良三山」と呼ばれ、九

州百名山、九州中央山地国定公園に指定されており、一ッ瀬川をはさんで市房山に相對し、その存在感を誇示しています。山頂付近にはブナ、ナラなどが林立し、4月から5月頃には

アケボノツツジやドウダンツツジ、ヤマツツジに彩られ登山客を楽しませてくれます。登山コースは上米良方面から登るコースもありますが標高差が約1300㍎あるので、ここでは井戸内峠からのコースを紹介いたします。このコースは往復約3〜4時間程度で井戸内峠から北に延びる林道を40分程歩き登山口の杉林から急登な道を終えると6合目の稜線の上米良からの登山道に合流します。ここから緩やかな道が続き途中に伐採地があり、そこから市房山が目の前に広がります。しばらく歩くと登山道が北

# 「米良三山」の二つ「石堂山」1547・4㍎

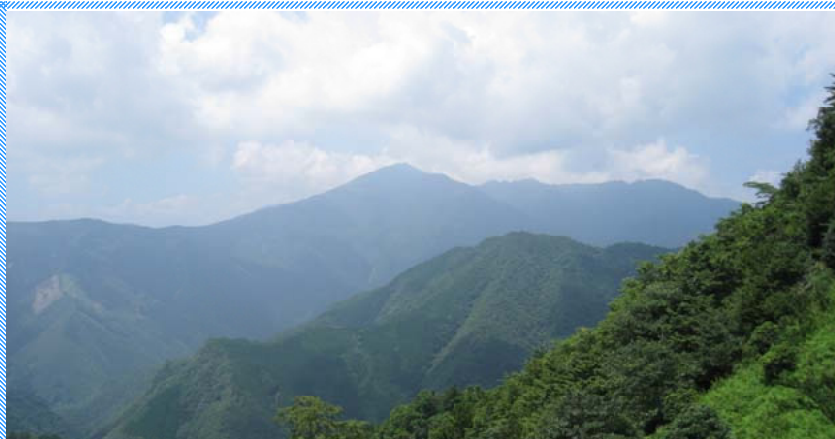
短い急坂を登ると林道に出、100㍎ほど先で左の稜線に上がるとこの山の正念場から山頂にたどり着きます。山



石堂山山頂の祠

頂の北面は樹林にさえぎられています。遠くは霧島連山まで望むことが出来ます。

石堂山の近くには布水の滝、虹の滝、轟八重の滝があり登山のついでに楽しむ方も多く、ひと汗かいた後に近くの西米良温泉に入り、日本一の木造車道橋の「かりこぼうず大橋」を見学するなど登山と観光、温泉入浴を兼ねて訪れてみてはいかがでしょうか。



(上) 石堂山の遠望



(下) 林道から見える山頂付近



真剣に木の名前当てクイズに挑戦する児童ら(宮崎北部)

【宮崎北部森林管理署】宮崎県椎葉村立尾向小学校の全校児童30人に、お届け講座「森林環境教育」を行いました。最初に材幹や枝葉に触れたり匂いを嗅いだりして樹木の名前や特徴などを学んだ後、木の名前当てクイズを実施。児童らはユニークな名前を楽しみながら挑戦していました。その後、下級生は、家族へ木製ハガキづくり、上級生は、シカと森林のカードを使ったゲームで、シカによる森林被害の深刻さを学びました。



## 鹿久島大学が杉で治山事業

【鹿久島森林管理署】鹿久島大学農学部への依頼を受け、同学部生物環境学科の学生27人が桜島地区民有林直轄治山事業地で治山事業の研修を行いました。当日は引の平地区から八谷沢の治山施工地で、治山事業の意義・これまでの経緯、今後の施工予定、保安林における治山事業の重要性や有効性、砂防事業の違いを説明。学生から、「対岸から見る桜島は雄大だが、麓で暮らす人々の生活など考えたこともなかった。地元住民の暮らしを守る治山事業は、地形的・環境的にも非常に厳しいと治山事業の大切さを痛感した。」と感想がありました。



職員から説明を聞く鹿大生＝鹿久島

## シカ被害対策を全職員で実施

【大分西部森林管理署】当署では、管内のほぼ全域でシカ被害を受けており、防護柵や捕獲対策を行ってきましたが、被害は増加しており、シカ被害対策を署の最重点課題と位置付け取り組んでいます。先日、全職員が参加した。シカ被害防止対策では、各署で取り組まれている袋かけや剥皮防止の方法、クヌギのぼう芽食害や立木の剥皮被害の防止対策を実施。また、効果的な対象について意見交換を行いました。今後、被害状況を



剥皮防止対策を行う職員＝大分西部

を検証しながら、現地に応じたシカ対策を民有林へ普及していきたいと考えています。

## 山都町立清和小で環境学習

【熊本森林管理署】天香山登山道周辺で、山都町立清和小学校4年生の児童や父兄37人を対象に環境学習を行いました。校長先生や森林インストラクターの案内で、ブナの大木を目指し、登山道を散策。途中、流域管理調整官が森林内のシカ被害状況の説明を行いました。目的地に到着した児童らは、清和森林事務所森林官から緑のダムや森林の効用について説明を受けました。また、川辺の生き物を調べたり水の検査を行い、参加した



森林官から説明を聞く児童ら＝熊本

児童や父兄は、森林の大切さを学ぶ体験に満足した様子でした。

## ちよっと言い杉でしようか

世界自然遺産の島「屋久島」

では戦後植栽された人工杉林の「地杉」が大きく育っています。屋久島では、樹齢千年を超える杉を千年杉（屋久杉）と言い、今では伐ることのできない杉となっています。また、土埋木の資源にも限りがあり、いよいよ「地杉」の出番がやってきたのであります。



私は世界自然遺産登録十年目に地域の仲間た



屋久島大屋根の会 事務局長 浦田 功 さん

しました。千年杉の苗から育った杉の子は、みごと生育してい

また、「地杉」をつかった家づ

ちと、島の木の文化を見直そうと「屋久島大屋根の会」を設立

つつけております。

ます。この「地杉」を使った小さな環境運動を

く、油っぽく木肌が美しい、さらに木材強度がある杉という点です。「地杉」が地域で多く使われることで何より「地杉」の林が元気になりCO2の吸収源となるのであります。また、「地杉」をつかった家づ

島内自給率を高めることが、森と里との環境をつなぐとの思いから、一割なかった「地杉」の活用を高めるために、品質や調達方法の仕組をつくり、施工者や一般消費者に向けたマニュアルを作成しました。屋久島の自然と人の関わり、木づかい運動をつづけることで、小さな流通が生まれ、自立できる環境産業として育つのであると、私は強く感じます。世界自然遺産に負けない木づかい運動を目指すと云ったら、「ちよっと言い杉」でしようか。



# 新任挨拶

## 屋久島森林管理署長



よねだ まさと  
米田 雅人

どろどろよろこぶ

年齢 48歳

出身地 鳥取県

抱負 前任地の関東森林管理局警城森林管理署では、東日本大震災に際して九州森林管理局の皆様からも多くのご支援を賜り厚く御礼申し上げます。

人と自然が共存しながら貴重な森林資源を次世代に引き継いでいくよう精一杯頑張る所存です。どうぞよろしくお願いたします。

みなどについて知ることができました。



大島 なおみさん

子供の時から今日まで山や森林を身近に感じる事がなかった私にとって、山や森として木々とのふれあう場所は数年前から考えていた山登りでした。九州の中心に位置する久住や阿蘇の山々に登ってみて、あらためてこの国が豊かな山々そして森林に恵まれていることを実感しました。そしてなにより森の中を歩くなかで得られる心の平穏に不思議な大自然の力を感じました。雑木林や整然と植林された林、そしてその中を流れる溪流、私たち人間がそこから得ている恩恵は沢山あ

# 豊かな森林を未来にどう引き継ぐか

環境保全が叫ばれる中、どうやって自然を守り人間が自然と共存できるかが、これから私たちが考えなければならぬ重要な課題だと思えます。

森林を保護するためにいろいろな取り組みがされています。今年には国際森林年にあたり各地で

【佐賀森林管理署】「私のかなえたい夢」と題し、地球環境保全に関心を持つ夢みることも募集した作文や絵の入選者ら63人を対象に、佐賀市内の「遊々の森」において森林教室を行いました。主催者あいさつのあと、シイやカシなどの広葉樹林の中で、NPO法人ピック・リーフによる、森林が緑のダムであることや野生動物のすみかになっ

ります。

この山や森を守り、未来へと引き継いでいくのは、何よりもこの国土に住む私たちです。森には私たちにとって木材という貴重な資源以外に、そこに住む動植物、河川など壊してはならない生態系があります。今日、

ていること、森林の効用などについて説明がありました。その後、全員で巣箱作りに挑戦し、出来上がった巣箱をみんなで協力して林内に掛けました。参加者からは「快適で気持ちよかったです。来年も参加したい」などの声が寄せられていました。なお、今回のイベントには、東日本大震災の被災地である宮城県から中学生と先生方が招待され、全国の参加者と一緒になって楽しく交流を深めておられました。



森林教室で説明を聞く参加者のみなさん＝佐賀

いろいろな催しが開かれ、一般の人には日本の森や林業の実情を知ってもらい将来の日本の国土について考えていく良い機会だと思えます。近年林業への従事者が減少し、安い外国材が多く輸入され、日本の林業は危機的な状況にあると知りました。日本

本森林を守り、林業を活性化するためには誰もが森林への理解と関心を深めその将来を考えていく必要があると思えます。

子供達が山村に一定期間暮らし山村留学の試みが始まっており、子供達にとって森を知り、自然と親しむよい体験になるこの制度を広めていって欲しいと

この春、未曾有の震災を経験し、私たち一人ひとりが日本のこのこれからの未来について真剣に考えていかなければならない自体に直面しています。安全で豊かな暮らしのために、エネルギーをどこからどのように作り出すのか、豊かな森林をもつ日本の国土と自然を未来にどう引き継いでいくのか私たち自身の問題として考えたいと思えます。

今年、一人でも多くの人が自然の中で綺麗な空気や森の緑にふれて、森から元気をもらい、日本の豊かな山とその未来についてあらためて考えてみる良い機会と思えます。

(福岡県久留米市在住)



## ボランティア団体とクリーン活動

【宮崎北部森林管理署】日向市の「日向海岸風景林」と「お倉ヶ浜海岸林」で、海岸林のクリーン活動を行いました。真夏の厳しい暑さの中、日向市や宮崎県をはじめ、日向市ふるさと自然を守る会、関係ボランティア3団体や地区住民など2日間で約100人が参加。林内のゴミ拾いや、遊歩道の草払いに汗を流しました。回収したゴミは、300kgにのびりました。



クリーン活動を行うボランティア団体＝宮崎北部

## 耶馬溪湖畔祭で木工教室

【大分西部森林管理署】「森と湖に親しむ旬間」の一環として「耶馬溪ダム湖畔祭り」が行われ、杉板による虫かご作りを行いました。虫かごと一緒に力



虫かご作りに挑戦する親子＝大分西部

ブトムシが貰えることあって、慣れない手つきで懸命に金槌を振るう子供らに職員も汗だくの対応でした。木のぬくもりを感じてくれることを祈るとともに、出来上がった虫かごを手にお礼を言った子どもの笑顔が印象的でした。

## 屋久島地域森林整備推進協会の調印

【屋久島森林管理署】当署では、(社)鹿児島県森林整備公社、屋久島町、屋久島森林組合の3団体と8月10日屋久島町安房総合センターで「屋久島地域森林整備推進協定」の調印を行いました。今後、勉強会や検討会を開催し、各団体の施業計画の情報を基に、森林施業の集約化、路網の共同利用や効率的な開設、

間伐方法や間伐材の販売、海上輸送など連携して森林整備を推進していくこととしており、今



協定書に調印した各団体の代表＝屋久島

後、協定により、屋久島の森林・林業の活性化が期待されます。

## 体験林業をサポート

【熊本南部森林管理署】人吉・球磨自然保護協会主催による体験林業を、球磨郡あさぎり町の松尾国有林内において行いました。当日は、人吉・球磨郡内から、緑の少年団やホイイスカウトが参加し記念植樹を実施。昼食後は3班に分かれ、当署職員の指導で間伐を体験しました。参加した子供たちは慣れない手つきで元氣よく手鋸を引き、夏休みの貴重な体験として汗を流



間伐木の伐倒に挑戦する児童ら＝熊本南部

していました。

10月1日～7日 全国労働衛生週間  
9月は準備期間

平成23年度全国労働衛生週間が10月1日から10月7日まで全国一斉に行われます。当局においてもこの趣旨に沿い、積極的な衛生管理の推進を図るため「平成23年度九州森林管理局労働衛生週間実施要領」を定め取り組んでいるところです。

なお、9月は準備期間となっています。

各署等においても「平成23年度安全衛生管理実行方針書」の重点項目のひとつである『「心とからだの健康」の保持増進』に向けた労働衛生活動の積極的な展開をお願いします。

スローガン

気くぱり目くぱり大切に  
明るい職場で健康管理



# 人のうごき

8月16日付林野庁長官発令  
近畿中国局計画部長

木暮甲吉（屋久島森林管理署長）

屋久島森林管理署長

米田雅人（関東局磐城森林管理署長）

林野庁計画課課長

9月1日付林野庁長官発令

林野庁治山課課長補佐

岡村和哉（計画課長）

計画課長

河野裕之（林野庁計画課課長補佐）

9月1日付森林管理局長発令

経理課係員

石井智美（九州農政局）

## 森林作業道現地検討会開催

【北薩森林管理署】伊佐市に位置する布計国有林内で林業事業体など60人が参加し、森林作業道作設現地検討会を行いました。講師の熊本南部森林管理署高木周一企画官が、森林作業道作設指針のポイントなどについて説明。また、現地で林道からの取り付けや洗い越し作設方法の説明がありました。午後からは、既設の森林作業道において今後における技術向上に向けた取り組みを確認しました。



現地検討会で説明を聞く参加者＝北薩



鹿児島市に単身在任5カ月経過。9月に入り、残暑こそ厳しいものの、朝夕、めっきり秋らしくなった。宿舎の目前にそびえる桜島の活動は相変わらず活発で、毎日のようにに勢いよく噴煙を上げ、年間を通じ全方位に降灰をもたらしている。当森林管理署や宿舎が位置する市内浜町方向への降灰は、季節により変わる風向きとの関係で主に夏場である。

単身故、日中は宿舎不在で窓

## くじゅうをパトロール

【大分西部森林管理署】地元自治体や環境省、警察署、九重の自然を守る会などの団体で組織している「くじゅう地区高山植物保護対策協議会」では、入林者の多い夏の時期に高山植物の盗採防止と登山マナーの向上を目的にパトロールを行っています。今回、延べ約50人が参加しパトロールを実施。入林者に「しおり」を配布、保護啓発と安全を呼びかけました。この様子は、大分県内のテレビで放



映されました。

入林者へ安全の呼びかけを行う＝宮崎北部

## 子供たちを縄文杉へ

【屋久島森林管理署】鹿児島青年会議所主催で「おおすみっこ探検隊 in 屋久島」が行われ、子供達約60人が参加。当署は企画の目玉である、縄文杉までの案内を担当。屋久島の自然について説明をしながら縄文杉に向かいました。当日は天気にも恵まれ、無事、全員を案内することができました。この体験を契機に屋久島の自然にもっと興味を持ってもらいたいと思いました。



縄文杉をバックに記念撮影する「おおすみっこ探検隊」11屋久島

# 油断大敵

も開放できない。風向きにもよるが、閉め忘れて外出しようものなら部屋中灰まみれである。今ではこの住環境にもすっかり慣れたが、しばらくは猛暑と重なる降灰につづく閉口させられ、降灰が少なくなる秋の到来

が霧島地域に降り注いだ。

桜島も新燃岳も決して気は抜

けない。油断すると堆積した火山噴出物が豪雨により襲いかかってくる。昨今、天がもたらすもの、人がもたらすもの、何事にも油断大敵である。

鹿児島と宮崎県にまたがる霧島連

鹿兒島森林管理署長 森本 義春



# 小物入れ作りに挑戦

8月21日、監物台樹木園みどりの交流館において、第3回実践・公開講座「クラブト」を開き、小学生を含む20人が参加。テレビのリモコンやペン・ハガキなどが立てられる「小物入れ」作りに挑戦しました。

参加者は、講師の九州インストラクター会の村尾昭志さんから、小物入れの作り方や木材の特性について説明を受けた後、作品作りに取りかかりました。のこぎりやドライバーなど普段使い慣れない道具に悪戦苦闘の様子でしたが、スタップのフォロームもあり次第にコツをつかみ次々に作品を仕上げていました。



真剣に作業に取り組む受講者のみなさん

参加者からは、「木材には木表・木裏があることを初めて知った。のこぎりを初めて使って難しかった。」などの声が聞かれ大変勉強になったようです。最後に出来上がった作品を手に全員で記念撮影を行い、作った作品を抱え笑顔で帰って行きました。

(担当Ⅱ指導普及課)



沖繩を除く全国に分布しているようになっていますが、私は九州の森で自生しているトチノギを観察したことはなく、神社仏閣でよく見かけ、熊本県庁東門の街路樹は立派です。

大きな特徴は、冬芽は樹脂を出す鱗片で覆われ、濡れているように見えることです。冬芽が凍結しないよう工夫していると思われ、植物の不思議を感じます。

東北を旅行すると「トチ餅」のお土産を見かけますが、トチの実はとてもあくが強くあく抜

## 門川高校生が下刈り

【宮崎北部森林管理署】日向市の「お倉ヶ浜ふれあいの森」で門川高校生と日向市ふるさと自然を守る会との協働で、下刈りを実施。生徒らは日向市ふるさとの自然を守る会会員の指導を受けながら、汗を流しました。その後、日向市ふるさと自然を守る会の大野裕氏から海岸林の樹木についての講義に生徒たちは熱心に聞き入っていました。



ました。

懸命に下刈りに取り組む門川高校生＝宮崎北部

## 48 トチノキ (トチノキ科)

きには時間が大変かかることから、トチノキの粉をそのまま使用するのではなく、小麦粉や米粉に混ぜてお菓子の材料として使用されています。

葉は対生で長い柄があり、小葉は手のひらを広げたような形をしています。掌状(しょうじょう)複葉といい、小葉は5〜7個(偶数個もあり)あります。目の高さで花を観察できたら雌しべのない花を見つけることができるでしょう。同じ木に両生花と雄花をつける珍しい樹木です。

樹木園では入り口、東中央付



近に大木があり、5月中頃直立する円錐花序の花を咲かせます。



夏休みが終わわり、通勤電車の中に真っ黒に日焼けした子供達の明るい声に戻ってきた。思い一杯の夏休みだったろうと想像する。一方、東日本大震災の被災地の子供達のことを思うと心が痛む。多くの子供達が転校を余儀なくされた。被災地域の復旧・復興には、相当の時間がかかるが、一日も早く子供達の元気な声が響き渡るよう願ってやまない。▼9月1日は防災の日だった。週間中に実施された地域の防災訓練に参加した。大震災後、初めての訓練だったことや布田川・日奈久断層帯が走っていることから地域の関心も高く、多くの方々の参加があった。災害は、避けられないが、被害を少なくすることは出来る。地震や火事などあらゆる災害を想定しての万全の備えと発生後の対応や地域での助け合いが重要であることを改めて認識した一日となった。▼日中の日差しも和らぎ秋の気配を感じる季節となったが、夏の疲れが出てくる時期でもある。今月は、労働衛生週間の準備期間。少々ガタがきた体の健康管理について考えてみたい。(の)